

今年度の後期から研究休暇期間（サバティカル）を頂き、私は現在、ドイツのデュイスブルク・エッセン大学というところにいます。

ドイツでは9月26日に総選挙が行われました。ここでは日本のように選挙カーが走り回り、候補者の名前が連呼されるということはありません。政党主体の選挙のため、個人が票を求めて活動する比重が低くなることもあります。何よりも静寂を愛するドイツ人がそんなうるさい候補者に投票するわけがない、という事情も関係しているようです（別に日本人もそういう選挙が好きなのではないのですが）。

その代わりにドイツの政党は中心街にテントを張り、そこで政策を訴えています。そして買い物客もこれを無視するのではなく、むしろ積極的に選挙運動員を捕まえて議論しており、とても印象的な光景を目にすることができました。



選挙期間中にドイツにいと様々な政党「グッズ」をもらえます。もちろん私には選挙権はありませんが、いろいろもらうことができました。



たとえばキリスト教民主同盟／社会同盟（CDU／CSU）という政党はこのような感じです（後者の「キリスト教社会同盟」はバイエルン州だけで活動する政党ですが、実質、前者と同じ政党としてまとめられます）。この政党は（引退を表明している）メルケル首相が所属する政党です。資金が潤沢なのか、ペンが豪華（政党のシンボルカラーは黒ですが、ペンの色は青でした）。



もう一つの大きな政党が社会民主党（SPD）で、シンボルカラーの「赤」が満載です。右側の男性が恐らく次の首相になりそうです。

またこのご時世ということもあり除菌ティッシュももらいました。名前に「B」がたくさん入った彼女はこの地域の候補者で、当選しました（三期目に突入）。





自由民主党（FDP）という政党もあります（どこかの国でよく聞く名前ですが、こちらは Liberal Democratic Party で、LDP と表記されます）。シンボルカラーは「黄色」です。ペンのデザインがとてもおしゃれですが、色は無難に黒です（黄色は殆ど使うことはないので、そこは良心的）。



緑の党はもちろん「緑」一色で、今回の選挙では過去最高の得票数でした。また風車ももらいました（紙でできていますが、風が吹くととんでもない勢いで回転します）。7月にドイツ西部で大洪水が起き、その被害はいまだに甚大ですが、それがなくてもドイツの環境意識はとても高いです。



左翼党（L i n k e）という政党もあります。この政党のカラーも赤ですが、少し紫が入った「薄めの赤」です。社会民主党から分離した左派グループと、元々は旧東ドイツの政党で、統一後は「民主社会党」と名前を変えた政党が合流して2007年に誕生した、比較的若い政党です。植物の種ももらいましたが、何の種かは謎。



ドイツの選挙制度では一つの政党が過半数を占めることがほぼ不可能です。そのため連立政権になりますが、現在、最も可能性が高そうなのが社会民主党（赤）、自由民主党（黄）、緑の党（緑）による「信号」連立（Ampel-Koalition）です（写真はニュース番組の一番面）。



一つの政党の意見のみが通るのではなく、異なる意見を折衷して政権を運営しなければならない点はとても興味深いと思います。みなさんはいかがお考えでしょうか。